

震災復興支援活動を続けるにあたり

日本製鉄株式会社東北支店 支店長
友情ネットプロジェクト 実行委員長
上原 慎太郎



2024年元日に発生した能登半島地震でお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々にお見舞い申し上げます。一日も早い復旧・復興を心からお祈り申し上げます。

まずは私が勤めている日本製鉄(にっぽんせいてつ)株式会社ですが、高炉を有する鉄鋼メーカーになります。1950年に設立された八幡製鉄と富士製鉄が1970年に新日本製鉄として合併し、2012年に住友金属工業と経営統合。そして2019年に現名称に商号変更されました。ここに子会社化されていた旧日新製鋼が2020年に合併する形で、鉄鋼高炉3社が一緒になり現在に至っています。私たちの世代ですと社会の授業で「1901年、官営八幡製鉄操業開始」と習った記憶がある方も多いでしょうが、日本初の高炉法での出銠は東北・釜石の地において南部藩士の大島高任が成功させ、また1886年に連続出銠を成功、官営八幡製鉄操業開始に際しては釜石から7名の技術者を派遣しています。ここ東北の地は日本の近代製鉄発祥の地であります。

さて、2023年末に当社が米国 U.S.Steel を買収との報道を耳にした方もいらっしゃるかと思いますが、現在、当社は国内に13地区の製造拠点、海外に15か国、51社のグローバル生産体制をとっています。各々の拠点では様々な地域貢献活動を実施しており、今回、年始の能登半島地震もあり、日本製鉄東北支店グループを中心に実施している地域貢献活動の一つ「友情ネットプロジェクト」について紙面をお借りして紹介いたします。

「友情ネットプロジェクト」は、東日本大震災による原発被害の影響が大きかった福島県の子供たちを元気づけ、夢や希望を取り戻してもらおうと2013年に「復興支援団体」として創設されました。福島県、福島県教育委員会、公益財団法人福島県体育協会にご協力いただき、多くの企業にも協賛をしていただきながら、福島県内の中学生を対象にスポーツを通じ、新しい体験や仲間との交流を経験してもらおうと活動を続けて参りました。当時の環境から屋内スポーツが好まれていたことや、ご協力いただける企業や団体の人材の面からも、バレーボールを中心とし「福島未来を担う子供たちの為に、バレーボールを通じて、心と身体の成長を支援す

る。」具体的には「年間を通じた巡回指導により、負けない心と健康な身体を作り、チームワークの大切さを学んでいただく。さらには、イベントへの参加により、他地域の子供たちとの交流を通じて、友情の輪を広げ、他人を思いやる心を学んで頂こう」と活動を続け、東日本大震災から10年を迎える2021年までに延べ8000名を超える中学生がこの活動に参加しました。(具体的な内容については同PJサイトの活動状況をご覧ください。 <https://www.youjyo.net>)

しかしながら、深刻化する少子化ならびに部活動指導員である教師の業務負担過多等を背景とした「部活動の地域移行」やコロナ禍による制約といった大きな環境の変化が起きました。また、震災から10年以上が経ち、「東北全体としてハード面で震災復興がひと段落」との雰囲気がある中であって「友情ネットプロジェクト」は、まだ終わらない福島復興を支援し続けていくため、未来を担う子供たちの心も育ててい

きたいと「ふくしま みらいびとづくりサポーター」と福島未来を担う子供たちの、今に寄り添い、力になっていく形にプロジェクトを進化させることに決めました。より子供たちが参加できるように、学校として対応しやすくなるように、全校生徒を対象としたアスリートの講演会を始めました。トップレベルのアスリートの体験・経験を通じて夢の大切さや、困難の乗り越え方などを伝え、中学生自らが将来を考える手助けをしていきます。また、現地である福島の実態に合わせ、より機動的に変化に対応した活動をしていくために、運営主体についても少しずつ福島に移しています。時代に合った有意義な活動として継続していくために、我々も変化を恐れず、柔軟に対応できるようにしていきます。活動内容に興味を持たれ、趣旨に賛同していただける新たな会員をお待ちしています。何卒、ふくしまの中学生、ふくしまの未来に絶大なる応援をお願い申し上げます。



—2023.11.23 友情ネットプロジェクト 東北交流会 in 名取—